スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛媛県新居浜市

自 治 体 名 ： 愛媛県新居浜市
担 当 課 名 ： 教育委員会事務局学校教育課
電 話 番 号 ： 0897-65-1301

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	234.47㎢
人口	111,153人
公立中学校数	12校
公立中学校生徒数	2,955人
部活動数 （運動部活動のみ）	132部活
地域クラブ活動数	25クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

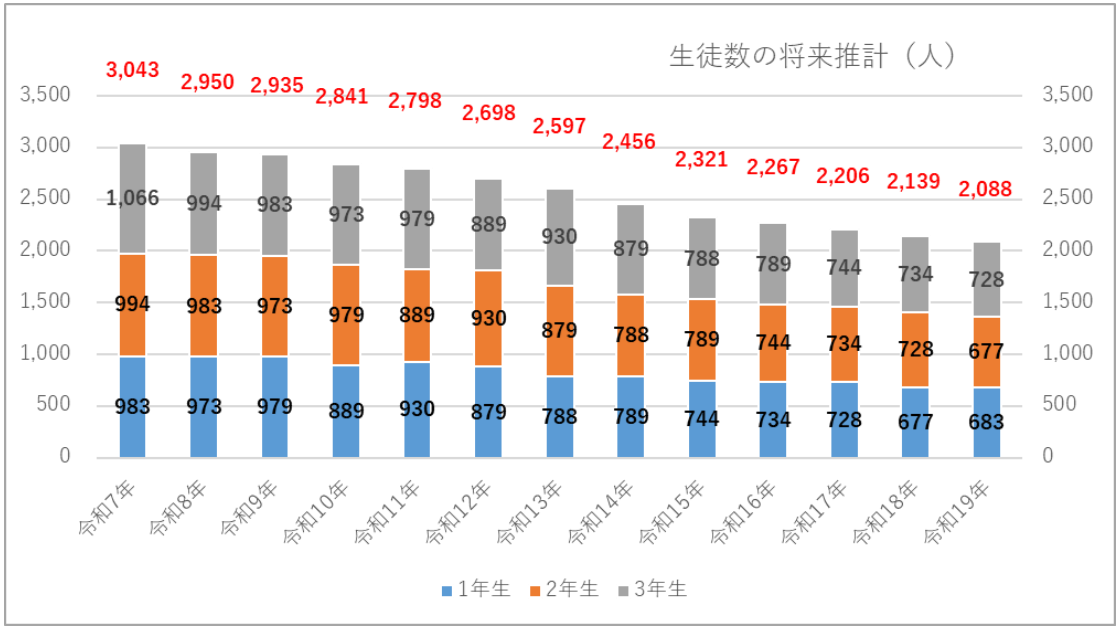
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本市にある市立中学校は12校あり、全ての市内中学校に運動系、文化系の部活動を設置しています。

一方で、全国的な人口の減少の中で、住民基本台帳を基礎資料とした生徒数の将来推計によると、令和7年度の3,043人から、令和19年には2,088人へと12年間で3割超の減少が見込まれ、今後、少子化の進行は避けられない状況です。

本市の部活動を取り巻く状況は、生徒の部活動における選択肢が縮小されているほか、団体競技を中心に、「合同部活動」や「拠点校部活動」の導入、「廃部」や「休部」等、部員数の減少に伴う問題が拡大しています。

自校に自分が参加したい部活動がない状況や単独の学校ではチーム編成が出来ない状況から、複数の中学校により「合同部活動」でチームを編成している部活動が複数存在する状況となっており、この傾向は、団体競技を中心として、さらに拡大することが見込まれます。

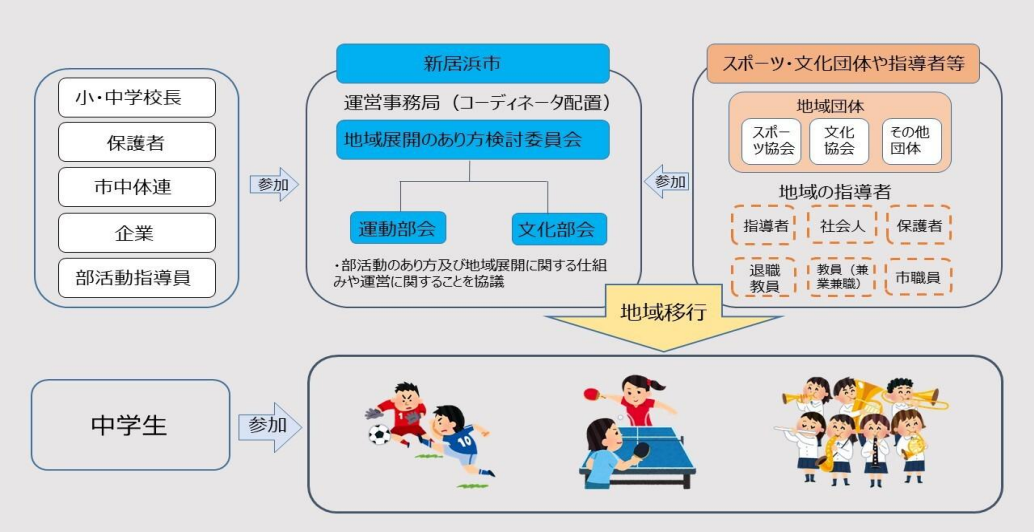


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会事務局（学校教育課）

・本事業の実施主体・事業全体の管理・運営

・コーディネーター

◉企画部（総合政策課　財政課）

・政策、財政担当として庁内横断協議に参加

◉文化スポーツ局（スポーツ振興課、文化振興課）

・新居浜市部活動のあり方及び地域移行に関する検討委員会委員として検討委員会に参加し、本事業へ協力、また、庁内横断協議に参加

年間の事業スケジュール

4月　地域移行実証事業の活動開始
（バレーボール、バスケットボール及び陸上競技）
5月　全教職員対象地域展開意向調査
6月　部活動のあり方及び地域展開に関する検討委員会
7月　中学校教頭説明会
実証事業実施団体聞き取り
中学校各運動部顧問代表説明会
中学校文化部顧問聞き取り
各種目別スポーツ協会聞き取り
8月　全教職員対象地域展開意向調査（第2回）
9月　中学校校長会での説明（以降毎月）
10月　第2回地域展開に関する検討委員会
11月　閉会中の委員会（議会）
12月　第3回地域展開に関する検討委員会
1月　市民との意見交換会（議会）
2月　小学校教職員、市職員対象地域展開意向調査
部活動地域展開推進計画（案）パブリックコメント
3月　第4回地域展開に関する検討委員会
部活動地域展開推進計画策定

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		3クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		0クラブ（0部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		3クラブ
全体の指導者数	32人	全体の運営スタッフ数	24人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
新居浜クラブユース	クラブチーム	バレーボール	・平日　4回 ・休日　1～2回	平日17:00～19:00 休日13:30～16:30ほか	1年18名 2年11名 3年8名	令和4年7月25日～	6人	6人	2,000円もしくは500円/月額	地域クラブ
NiJi	クラブチーム	バスケットボール	・平日　3回 ・休日　1～2回	水曜17:00～19:00 木金19:00～21:00 休日 施設の状況による	1年17名 2年8名 3年2名	令和6年6月～	15人	15人	3,500円もしくは1,500円/月額	地域クラブ
NINOS陸上クラブ	クラブチーム	陸上競技	・平日　3回 ・休日　1～2回	平日18:30～20:00 休日9:00～12:00 ほか	1年2名 2年2名 3年2名 ※強化練習会延べ240名	平成28年～	11人	3人	5,000円/月額 3,000円～7,000円/月額 ※強化練習会500円/1回	地域クラブ

2.実証内容と成果

スポーツ庁

主な取組例

●新居浜クラブユース　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	新居浜クラブユース
期間と日数	月20回程度（火曜以外） ※学校のテスト期間や練習試合等と日程調整し実施
指導者の主な属性	教員等OB（経験者）、社会人チーム、市バレーボール協会員
活動場所	金栄小、惣開小、北中体育館
主な移動手段	指導者の自家用車、部員の自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	24,000円（クラブ所属） 6,000円（部活動と併用）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図

【新居浜クラブユース】
令和4年7月25日発足
令和5年9月地域移行開始

全国中学校体育大会の参加要件の緩和やスポーツ環境の充実を理由として、ユースチームを発足することとした。

【母体】
（指導者）市内に6チームあるジュニアバレーボールクラブ（小学生）の指導者
（部員）　市内に男子4チーム、女子10チームある中学校バレーボール部のうち、南中男子バレー部員を中心とした中学生、高校生
※以前からジュニアクラブと一緒に休日練習などを行っていた。

●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●運営スタッフ 6名
　役割：全体の統括、運営及び会計を行う

●指導者 6名（運営スタッフ兼務）
　役割：競技の専門的な指導、練習試合の引率等を行う

2.実証内容と成果

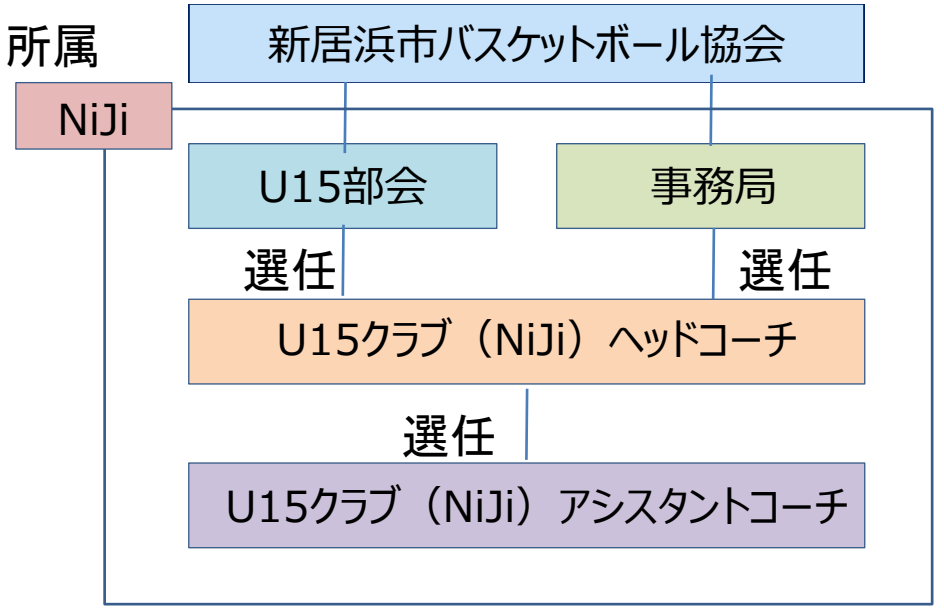
スポーツ庁

主な取組例

●NiJi　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール
運営団体名	新居浜市バスケットボール協会U15クラブ（NiJi）
期間と日数	週3回　水曜17:00～19:00、木曜・金曜19:00～21:00、土曜・日曜（施設、試合等の状況による）
指導者の主な属性	教員等OB（経験者）、社会人
活動場所	南、北、中萩中体育館、市民体育館、山根体育館　ほか
主な移動手段	指導者の自家用車、部員の自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	42,000円（クラブ所属） 18,000円（部活動と併用）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●運営スタッフ 15名

役割：全体の統括、運営及び会計を行う

●指導者（コーチ）15名（運営スタッフ兼務）

役割：競技の専門的な指導、練習試合の引率等を行う

2.実証内容と成果

スポーツ庁

主な取組例

●NINOS陸上クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	NINOS陸上クラブ
期間と日数	月曜、水曜、木曜18:30～20:00、 強化練習会　土、日のいずれか9:00～12:00
指導者の主な属性	高校、中学指導者、社会人（全国大会等経験者、ジュニアコーチ資格者等）
活動場所	東雲陸上競技場、山根グランド、市内体育館（雨天時）ほか
主な移動手段	指導者の自家用車、部員の自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	週1　41,000円 週2　65,000円 週3　89,000円 強化練習会のみ　5,500円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図

【NINOS陸上クラブ】
平成28年発足
令和6年10月地域移行開始

（指導者）地元出身の高校、中学指導者、社会人（全国大会等経験者、日本陸上競技連盟の公認ジュニアコーチ資格者等）
（部員）　陸上教室：60名
陸上クラブ：25名
中学生強化練習会：約50名（参加者）
※小学生から中学生まで、初心者から経験者まで幅広く在籍

●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●運営スタッフ 3名
役割：全体の統括、運営及び会計を行う

●指導者 11名（うち運営スタッフ兼務3名）
役割：競技の専門的な指導、練習試合の引率等を行う

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

中学校教頭説明会（令和7年7月実施）

令和7年度末策定予定の新居浜市部活動地域展開推進計画（素案）について、基本的な考え方、地域展開の類型と課題、長期スケジュール等、概要を説明。

国の「地域スポーツ・文化芸術活動と部活動改革に関する実行会議（最終とりまとめ）」について、地域クラブの定義、改革実行期間、費用負担の在り方等、概要を説明。

取組の成果

各中学校の教頭に、新居浜市として行いたいと考えている地域展開の手法、課題、スケジュール等について、推進計画素案に沿って説明し意見を求めることで、現在の各中学校の部活動の状況を踏まえた意見の共有、地域展開していく上での課題などの洗い出しを行うことができた。

また、国の部活動改革に関する実行会議（最終とりまとめ）を説明することで、国全体で取組んでいる事業であるということや、今後の改革の方向性等について共有することができた。

今後の取組における課題

・部活動を学校から地域へ移行・展開することで、これまで運営費を担っていた校納金、部活動後援金などの財源がなくなるが、どのように賄うのか。
・土日のみを地域展開した場合、平日と指導者が違うと混乱するのではないか。
・市を川西・川東・上部西・上部東の4ブロックに分けると、成り立たない種目も出てくるのではないか。
・指導者は不足する。

課題への対応方針

・運営費の財源については、原則会費で賄うが、国・県・市からの補助についてもガイドラインに基づき行うこととする。
・新居浜市においては、教員主体の地域クラブに担ってもらうことが多くなると考えられ、平日と土日で指導者が違うことは少なく、一般の地域クラブについても、土日だけ担うクラブは少ないと考えている。
・4ブロックの分割はベースとするため、必須にはしない。
・指導者の確保については重要な課題の一つとなるため、今後も関係団体、協力団体に働きかけを行っていく。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

中学校専門委員（各運動部顧問代表）説明会
（令和7年7月実施）

令和7年度末策定予定の新居浜市部活動地域展開推進計画（素案）について、基本的な考え方、地域展開の類型と課題、長期スケジュール等、概要を説明。今後教職員に対してどのように周知していくのか、小学校に対しての周知をどのようにしていくか等現状の市の考え方を説明。

取組の成果

中学校専門委員（各運動部顧問代表）に、新居浜市として行いたいと考えている地域展開の手法、課題、スケジュール等について、新居浜市部活動地域展開推進計画素案に沿って説明し意見を求めることで、現在の各中学校の部活動の状況を踏まえ、希望や不安な点等について意見の共有、地域展開していく上での課題などの洗い出しを行うことができた。

今後の取組における課題

・クラブチームにすると部員の取り合い、引き抜きが発生すると考えられる。
・熊本のように部活動を残す方針を出した自治体もあるが、地域展開を行うのであれば、教員主体のクラブを残すのではなく、地域で担う方策を考えるべき。
・以前、新居浜市では拠点校方式は行わないと伺ったが、方針の転換が行われたのか。
・4ブロックの分割では平日は移動に時間がかかり、特に冬等は練習時間を確保できない。
・運営費はどのように賄うのか。
・大会運営はこれまで教員が大部分を担っていたが、今後はどの様になるのか。

課題への対応方針

・地域展開し、地域クラブにすると生徒が入りたいクラブを自分で選ぶことにはなる。
・新居浜市で受け皿になる地域クラブを、生徒が引き続き活動を継続できるだけ準備するには、教員の協力は不可欠と考えている。
・過去の経緯は不明だが、拠点校方式も地域展開の一つの方法と考えている。
・4ブロックの分割はベースとするため、必須にはしない。
・運営費の財源については、原則会費で賄うが、国・県・市からの補助についてもガイドラインに基づき行うこととする。
・指導者、スタッフの確保については重要な課題の一つとなるため、今後も関係団体、協力団体に働きかけを行っていく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

県主催の研修会等に積極的に参加をするように案内をするとともに、各クラブから複数名参加できるよう財源確保を検討する。

また、当該研修会は例年秋から冬ごろに行われているため、研修に参加するまでの間に地域展開を開始する場合は、事前研修は市独自でも行う必要があると考える。

なお、指導者資格の取得に向けた研修についても必要性に応じ、現実的で持続可能な受講方法を模索していきたい。

指導者研修の内容

研修名	令和7年度　第2回部活動指導者研修会
講師	県総合教育センター　指導主事　ほか
研修内容	講義① 「生徒を生かし伸ばす部活動指導の在り方」 講義② 「コーチング理論について」 講義③ 「学校部活動から学ぶ指導方法について」

指導者研修受講者の声

●参加者の声

講義①
　指導者の7つの心構え①人は必ず「伸びる」②教育の完結は「自分」が変わること③教育の中は「選手」④選手は、「可能性」を持った存在⑤我々の重要な仕事は選手の「能力」と「意欲」を引き出すこと⑥我々の立ち位置は「サポータ」⑦自らが「安心安全基地」となり、信じて待つこと。

講義②
　①指導者は、学び続けなければならない。②本を読む③細かくメモを取る④選手と一緒に汗を流す
コーチングの基本　①計画②理念、指導方針（文字化する）③目標　①考える②指導する③諭す④一緒に考える。選手に寄り添う。練習で身につくまで1万回2万回かかる。選手の可能性を引き出す。感情的にならない。

講義③
　いい指導者とは、「育てる」指導者　「支える」指導者　「学び続ける」指導者

今回の研修会を自分のチームに生かしていきたい。有意義な研修となった。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

各種目別スポーツ協会聞き取り（令和7年7月実施）

令和7年度末策定予定の新居浜市部活動地域展開推進計画（素案）について説明、協会に登録している団体の確認、協会から登録団体等への協力依頼の可否の確認と条件確認、必要な指導者資格の確認等を各種目別スポーツ協会の担当者と協議。

今後の取組における課題

・体育館等施設利用の減免などがあればよい。
・シャトル等消耗品費が高騰、予算の工面に苦慮している。
・仕事との両立、特に時間の確保が難しい。
・資格取得の補助は必要。
・指導者への謝礼（実費弁償）は必要。
・野球に適したグラウンドが少ない。

取組の成果

新居浜市として行いたいと考えている地域展開の手法、課題、スケジュールなどについて、推進計画素案の共有、地域展開していく上での課題等の洗い出しを行うことができた。

また、どの協会も周知等には協力について承諾、今後、認定地域クラブを公募する際等に依頼する。

課題への対応方針

・体育館、グラウンド等の施設については、地域展開が進めば、学校の体育館、運動場等の活用が可能となると考えている。
・運営費の財源については、原則会費で賄うが、国・県・市からの補助についてもガイドラインに基づき行うこととする。
・現行の地域クラブ同様、土日、業務後の時間での調整をお願いしたい。
・指導員の謝礼や資格取得の助成については、国・県・市からの補助についても検討していくこととなる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

新居浜クラブユース（バレーボール）

Sクラス（学校部活をしながらクラブに所属）とCクラス（学校に部活がないためクラブで活動）の2クラス編成で一緒に活動している。

また、活動場所が金栄小体育館以外にも惣開小、北中体育館の使用を開始することができ、原則土日のみの活動だったものが、平日も活動することができるようになった。

Cクラスは中体連参加基準を満たし、令和7年度の新人戦では市内で優勝している。

取組の成果

Sクラスでは学校部活動の技術の底上げ、Cクラスでは学校に部活動が無くバレーボールができていなかった生徒も活動できるようになり、今後、部活動を地域展開していく上での受け皿として、認定地域クラブになることについての検討を了承している。

また、各中学校の顧問とも連携し、部活動との合同練習等も行っており、今後、市内のバレーボール部全体について、合同部活動、拠点校部活動を含め、スポーツ協会、顧問、クラブ協議し、方向性を決めていく体制ができつつある。

今後の取組における課題

・クラブユースについては現在37名の部員がいるが、それ以外の入部希望者が保留になっている。理由として、安全に活動できる指導者の確保、37名を超えて活動できる場所の確保に苦慮しているため。

・創設からこれまで会計等については実質1名で行ってきており、持続可能なものにするため、ノウハウを継承する後継者が必要となっている。

課題への対応方針

・指導者については、各学校の教員やバレーボール経験者などがスポットで指導に入っており、充実しつつある。活動場所については、学校部活動と連携しながら、場所を確保していくが、新入部員を受け入れるには至っていないため、今後も検討が必要。

・運営スタッフについては昨年度1名だったものが、指導者等が運営にも加わり、6名に増員、順次、引継ぐこととしている。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

NiJi（バスケットボール）

アカデミーコース（学校部活をしながらクラブに所属）とクラブコース（クラブのみ活動）の2クラス編成で一緒に活動している。

指導者については市バスケットボールでの公募、推薦を行っている。

また、遠征や練習試合等を充実させるため、令和7年度から月額参加費を両コースともに月額500円ずつ改定した。

今後の取組における課題

・バスケットボールについては中体連の大会の参加資格として、自校にバスケットボール部が無い生徒のみで構成するクラブチームとしていることから、アカデミーコースがあるNiJiは中体連の大会に参加できない。市の認定地域クラブの要件は中体連の大会に参加するチームを予定しており、認定地域クラブにする場合は協議することとしている。

取組の成果

アカデミーコースでは学校部活動の技術の底上げ、クラブコースでは学校に部活動が無くバスケットボールができていなかった生徒も活動できるようになり、今後、部活動を地域展開していく上での受け皿を担っていくこととなると考えている。

指導者については市バスケットボール協会での公募、推薦を行っており、比較的安定して指導者を配置することができている。

参加費を改定し、アカデミーコースを月1,500円、クラブコースを月3,500円とし、低廉な価格を維持しながら、遠征や練習試合等を充実させることができた。

課題への対応方針

・現状でもバスケットをしたい中学生の受け皿となっているため、今後も現在の2クラス編成を継続し、競技力向上をしていくか、認定地域クラブとして活動するか、地域展開の状況を注視しながら、決定していくこととしている。同時に、現状のままでは市の認定地域クラブとなることができないため、中体連の大会への参加基準を満たすための方策を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

NINOS陸上クラブ（陸上競技）

新居浜市内での陸上競技の裾野を広げるために、学校の部活動ではできない専門的な指導を提供し、子どもたちの競技力を高めている。

特に部活動だけでは指導が行き届きにくい種目（ハードル、砲丸投げ、走り高跳び、走り幅跳び等）の底上げ、実証事業を行うことで、強化練習会の回数を増やすことができ、在籍する小学生から中学生まで、初心者から経験者まで幅広く指導することができている。

取組の成果

現在、市内6校（西、泉川、船木、角野、中萩、川東）に陸上部がある。NINOS陸上クラブ以外に連携協力しているT&Fというチームがあり、この両チームで、市内全域の受け皿となることも可能な活動規模となりつつある。

顧問等教員とも連携できており、学校部活動の大会出場支援等もしているため、今後、地域展開のタイミング等についての方向性を決めていくこととなる。

今後の取組における課題

・現状、指導者の確保は関係者への声掛け等で行っているため、量と質がバランスよく確保できるようにする必要がある。
・事務関係はほとんど1名で行っており、持続可能なものにするために運営スタッフを増員する必要がある。
・会計について、透明性を確保し、参加者やその保護者の理解を深める必要がある。

課題への対応方針

・当面の間はスポット指導者を採用し、運営していくが、持続可能なものにするためには検討が必要。今後は小学校の教員等にも協力していただくことも視野に入れている。
・事務関係も携わる運営スタッフを指導者に兼務してもらい、対応していく。
・平成28年の発足当初から営利目的では行っておらず、収支の公表も検討していく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

現在、実証事業を行っている地域クラブについては、すでに数年間安定的に運営しているため、収支バランスについても持続可能なものと考えられるが、今後、さまざまな競技の地域展開を進め、市として地域クラブを認定していくなかで、持続可能なものとするためには、補助等、行政としての支援は行っていく必要がある。



新居浜クラブユース（バレーボール）

1　収入の部

区分（費目、補助金等名）	予算額(円)
部費	402,000
スポーツ安全保険代（生徒）	24,800
実証事業（指導員報酬）	224,400
実証事業（消耗品）	20,000
実証事業（費用弁償）	46,200
R6年度からの繰越金	21,555
合　　計	738,955

2　支出の部

区分（費目）	予算額(円)
実証事業（指導員報酬）	224,400
実証事業（消耗品）	20,000
実証事業（費用弁償）	46,200
スポーツ安全保険代（生徒）	24,800
スポーツ安全保険代（コーチ）	3,700
スポーツ安全保険振込手数料	560
緊急用バッグ代	11,000
ユニホーム代	64,800
予備費	343,495
合　　計	738,955

NiJi（バスケットボール）

1　収入の部

区分（費目、補助金等名）	予算額(円)
会費（月謝）	864,000
実証事業（指導員報酬）	224,400
実証事業（費用弁償）	46,200
実証事業（消耗品）	20,000
R6年度からの繰越金	653
合　　計	1,155,253

2　支出の部

区分（費目）	予算額(円)
医療品	50,000
ボールケース2個（男女）	57,024
会場使用料	150,000
チーム登録費(JBA)	20,000
大会参加費	200,000
ユニホーム補助（チーム予備）	93,600
遠征費補助	300,000
試合球（6号、7号）	31,160
タブレット	130,000
実証事業（費用弁償）	46,200
実証事業（消耗品）	20,000
雑費、予備費	57,269
合　　計	1,155,253

NINOS（ニーニョス）陸上競技

1　収入の部

区分（費目、補助金等名）	予算額(円)
クラブ月謝	1,400,000
クラブ年会費	300,000
中学強化練習会参加料（4月～3月）	100,000
実証事業（指導員報酬）	224,400
実証事業（費用弁償）	46,200
実証事業（消耗品）	20,000
補助金	50,000
R6年度からの繰越金	39,149
合　　計	2,179,749

2　支出の部

区分（費目）	予算額(円)
クラブスタッフ謝金	1,399,500
備品	300,000
スタッフ謝金（土日）	140,000
スポーツ安全保険	59,280
施設使用料	60,000
トレーニング用品	60,000
広告料	15,000
登録料（団体＋個人）	15,000
実証事業（費用弁償）	46,200
実証事業（消耗品）	20,000
予備費、雑費	64,769
合　　計	2,179,749

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

・市では、休日の学校施設を地域に開放している。児童生徒のみが利用する場合は無料で借りることができる。部活動の地域展開に伴い社会体育となるため、学校開放事業を活用して行う必要があるが、参加者が生徒に限られる場合だけでなく、地域の小学生や高校生、社会人などが参加した場合等も含めて、費用負担の在り方についてモデル事業を通じて実情を把握する。

・令和6年度に実施した新居浜クラブユース（バレーボール）、NiJi（バスケットボール）では、学校開放事業を活用して実施した。

取組の成果

・新居浜クラブユース（バレーボール）やNiJi（バスケットボール）については、昨年度に引き続いて、学校開放事業を活用し、また、学校部活動と連携して、合同練習等を行うことで、学校施設の活用を行うことができた。

今後の取組における課題

・学校開放事業を活用する場合は、学校部活動終了後に社会体育として申請が必要となるが、地域展開が進んだ場合、それを社会体育と学校体育で整理する必要があり、また、その分類が当てはめるのかを含めて、検討する必要がある。

・地域展開が進むことで、学校部活動での学校施設の利用頻度が変わってくることから、その施設の利用について、整理する。

課題への対応方針

・現行の社会人チーム、クラブチーム、学校部活動等に加え、認定地域クラブができた場合の学校開放事業について、現行のルールで対応できるかを担当課等と協議し、新たな仕組みを構築していく必要がある。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

新居浜市部活動地域展開推進計画（仮）を令和7年度末を目途に策定することとし、その理解、情報共有、意見交換をするため、中学校の教頭、校長会、各運動部顧問代表者、文化部顧問、各種目別スポーツ協会、等で説明会等を行い、部活動のあり方及び地域展開に関する検討委員会で協議を重ね、地域展開後に指導・運営を継続して行うか中学校全教職員に意向調査を実施、指導者の確保が重要な課題となることから小学校教職員や市職員に対しても部活動指導員の意向調査を行った。パブリックコメントを実施、検討委員会、教育委員会を経て、新居浜市部活動地域展開推進計画を策定することとする。

実証事業については昨年度から継続して、バレーボール、バスケットボール、陸上競技の3種目で行い、それぞれ活動の幅、学校との連携状況を広げており、地域展開後の受け皿の担い手として検討、協議を重ねていくこととする。

●成果の評価

新居浜クラブユース（バレーボール）

各中学校の顧問とも連携し、部活動との合同練習も実施、今後、市内のバレーボール部全体について、合同部活動、拠点校部活動を含め、方向性を決めていくこととなる。

練習場所、指導者の確保については引き続いて検討していく。

NiJi（バスケットボール）

アカデミーコースでは学校部活動の技術の底上げ、クラブコースでは学校に部活動が無くバスケットボールが出来なかった生徒も活動できるようになり、受け皿を担っていくこととなると考えている。認定地域クラブになるかは検討の上、協議していく。

NINOS陸上クラブ（陸上競技）

NINOS陸上クラブとT&Fの2チームで市内全域の受け皿となることも可能な活動規模となっており、今後、各学校や協会などと方向性を決めていくこととなる。

●今後に向けて

来年度については、運動部活動の地域展開推進事業を活用し、実証事業を行った地域クラブに加え、中体連の大会に参加する予定の地域クラブなどを認定地域クラブとするための公募を開始、その運営費の補助を実施、また、将来、地域展開後の指導者に計画的につなげていくための部活動指導員についても公募、その他、経済的困窮世帯の地域クラブへの参加費等の支援を実施、市推進計画の中では令和10年度3年生引退時点で、土日の学校部活動は地域クラブとしての活動へ展開することとしており、その実施に向けて推進していきたいと考えている。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参考資料





【陸上競技練習風景】



【バスケットボール練習風景】



【バレーボール練習風景】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

部活動の形態	担い手	活動場所
地域クラブ型	教職員（希望者）	民間クラブ施設
合同部活動型	指導者 A（専門家・スポーツクラブ等）	学校施設
拠点校実施型	指導者 B（職務外の教職員）	公共運動施設
単独校型	指導者 C（希望地域住民）	





- ○ 各競技団体の実情に応じ、上記、何れかの組み合わせで実施
- ○ 各競技団体は、移行後の部活動の運営・指導についての基準または指針を決め、指針に従って実施する（連携・共通認識の中心を据えるため）
- ○ 活動場所について、民間施設等を含めて使用許可を随時求める
- ○ 活動中の事故等については、これまでの部活動事故等の対応を参考に行動する

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

